

第6学年「図工」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果** ○作ることを楽しみ、表したいことに合わせて表し方を工夫することができる。
○新しい発見や技法に興味をもって取り組んでいる。
- 課題** ▼美術作品を鑑賞する機会が少なかった。
▼友達同士の会話が弾み、作業の手が止まってしまう児童が多々いる。
▼相手に伝わる表現の仕方を考えて活動する児童が少ない。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 表現方法に応じて、材料や用具を活用する力。
- ◇ 感じたこと、想像したことなどから、表したいことを見付け、どの様に表すか考える力。
- ◇ つくりだす喜びを味わい、さらに良くなるにはどうすればいいか考えながら活動することができる。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- めあてを具体的に提示し、その日のゴールを明確にする。
- 材料や用具の特徴が伝わるように素材や表現方法を比べて、表現の多様さを示す。

言語活動の工夫

- 作品の題名や、頑張り・工夫したことを考え、他者に伝わるように作品シートに書く。
- 鑑賞の際に、他者の作品の魅力や工夫を言葉にしたり、文章に書き起こしたりする。

ICT活用の工夫

- パワーポイントで情報を整理し、作業過程を分かりやすく表示する。
- 実演機を使って制作方法や制作ポイントを伝える。

課題解決力育成の工夫

- 「発見タイム」を設け、友達の作品の良さや工夫を見付け、自分の制作に活かしていく。
- 自分のイメージを周りの友達や教員に共有しながら、共に考えていくように促す。

達成目標

- ◇ 材料や用具を活用し、表し方などを工夫して創造的につくり、表すことができる。
- ◇ 表したいこと、表し方などについて考え、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- ◇ 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。